Part 1

第１章　高等学校と高校生の理解

第１節　高等学校・高校生の状況把握と進路先の理解

１　高等学校・高校生の状況

①　高等学校の数

・2015 年（平成 27 年）度の学校数は 4,939 校で、前年度より 24 校減少している。

・中高一貫教育を行う学校数は併設型が 459 校、連携型が 84 校で、併設型は前年度より 55 校増加、連携型は前年度より 2 校減少している。

【高等学校の設置者別学校数】

（単位：校）

区　分	計	国　立	公　立	私　立	計のうち中高一貫教育を行う学校（再掲）	
					併設型	連携型
平成 17 年度	5,418	15	4,082	1,321	81	78
22	5,116	15	3,780	1,321	273	82
23	5,060	15	3,724	1,321	289	83
24	5,022	15	3,688	1,319	309	83
25	4,981	15	3,646	1,320	318	83
26	4,963	15	3,628	1,320	404	86
27	**4,939**	**15**	**3,604**	**1,320**	**459**	**84**

(資料出所:文部科学省「平成 27 年度学校基本調査(速報値)」2015 年 12 月)

②　高校生の数

・2015 年（平成 27 年）度の生徒数は 3,319,114 人(男子 1,671,325 人、女子 1,647,789 人)で、前年度より 14,905 人減少している。

・全日制課程(本科)の生徒数は 3,212,449 人、定時制課程(本科)の生徒数は 97,164 人である。

（単位：人）

区　分	計	男	女	（再掲） 全日制		定時制		本務教員一人当たりの生徒数
					うち本科		うち本科	
平成17年度	3,605,242	1,827,534	1,777,708	3,494,770	3,486,683	110,472	110,137	14.3
22	3,368,693	1,703,397	1,665,296	3,252,457	3,244,052	116,236	116,049	14.1
23	3,349,255	1,690,804	1,658,451	3,233,248	3,224,739	116,007	115,822	14.1
24	3,355,609	1,691,921	1,663,688	3,243,422	3,235,116	112,187	112,011	14.1
25	3,319,640	1,672,326	1,647,314	3,212,916	3,204,261	106,724	106,559	14.1
26	3,334,019	1,678,353	1,655,666	3,231,992	3,222,750	102,027	101,865	14.2
27	**3,319,114**	**1,671,325**	**1,647,789**	**3,221,781**	**3,212,449**	**97,333**	**97,164**	**14.1**

(資料出所:文部科学省「平成 27 年度学校基本調査(速報値)」2015 年 12 月)

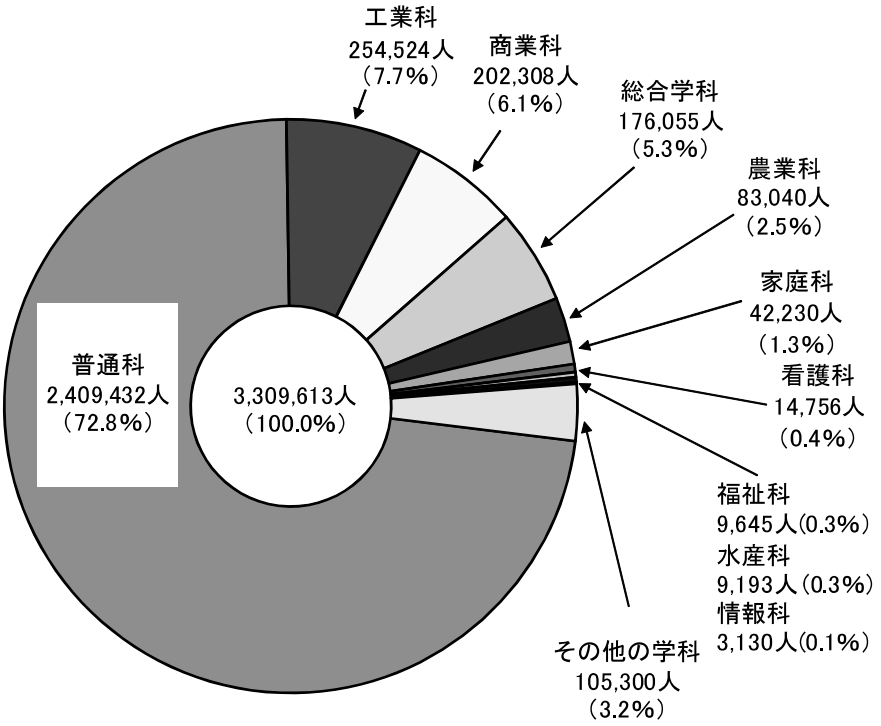
③　高等学校の学科別生徒数

・2015年（平成27年）度における本科の生徒数を学科別にみると、普通科が2,409,432人で最も多く、本科の生徒数の72.8%を占めている。次いで、工業科が254,524人で7.7%、商業科が202,308人で6.1%、総合学科が176,055人で5.3%、等となっている。

・1999年度の学校基本調査結果では、本科の生徒数4,203,750人のうち、普通科の生徒が3,087,519人で73.5%、工業科が268,388人で8.8%、商業科が364,177人で8.7%、総合学科が58,789人で1.4%であった。

・1970年度は、普通科の生徒が58.5%、職業学科（専門高等学校）の生徒が40.7%、その他の専門学科（理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係等の学科）の生徒が0.8%であったが、職業学科の生徒の比率が年々減少している。

・最近の20年間は、普通科の生徒が73%前後でほぼ一定するとともに、普通科と職業学科とを総合する学科として1994年に創設された総合学科で学ぶ生徒の比率が高くなっている。



（資料出所:文部科学省「平成 27 年度学校基本調査(速報値)」2015 年 12 月）

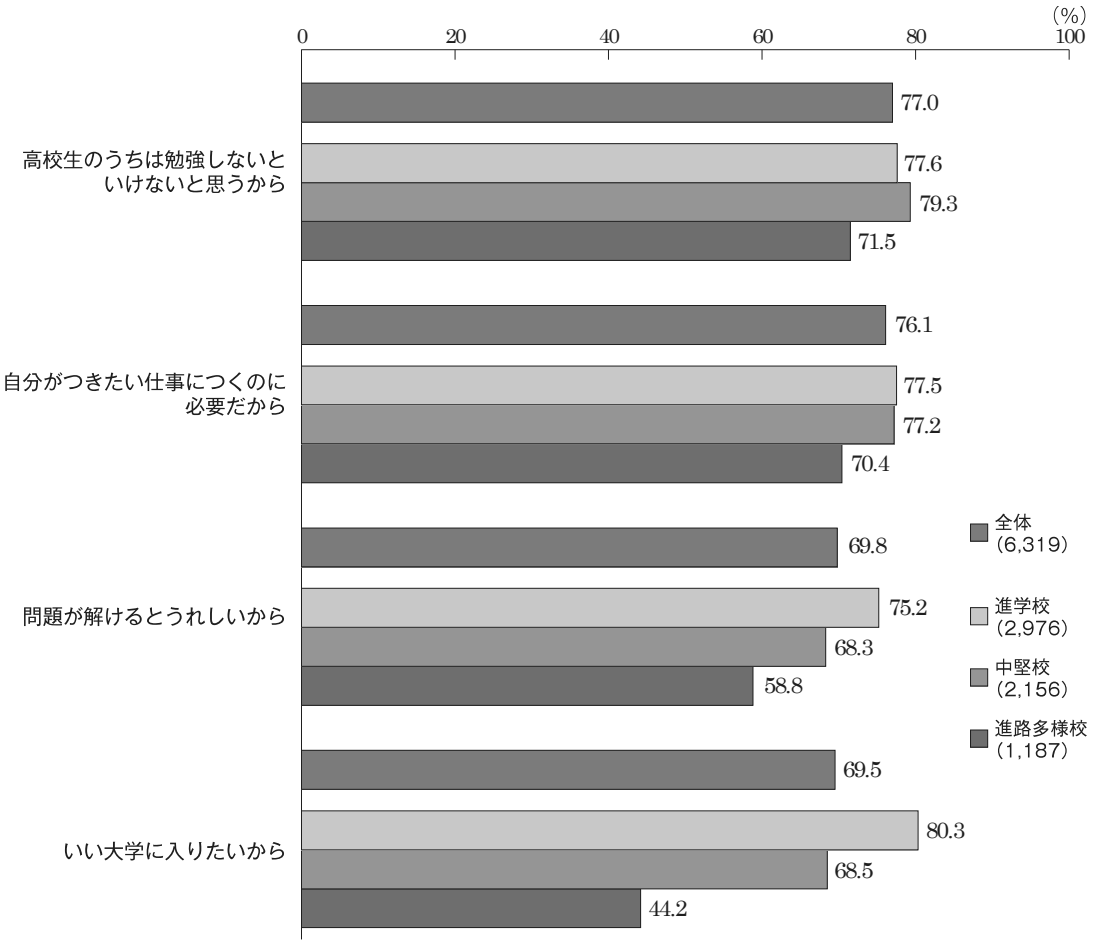
２　高校生の学習、日常生活、意識

① 高校生が勉強する理由

・高校生が勉強する理由は、全体的にみると「高校生のうちは勉強しないといけないと思うから」との回答が 77.0%と最も高い。次いで「自分が就きたい仕事に就くのに必要だから」が 76.1%である。

・高等学校のタイプ別では、「いい大学に入りたいから」が、進学校(偏差値 60 以上目安)、では 80.3%と最も高い勉強理由である。中堅校(偏差値 50～59 目安)では 68.5%、進路多様校(偏差値 50 未満目安)では 44.2%であり、他の理由と比較すると低い。

【勉強をする理由（全体　偏差値層別）（高等学校１・２年生）】

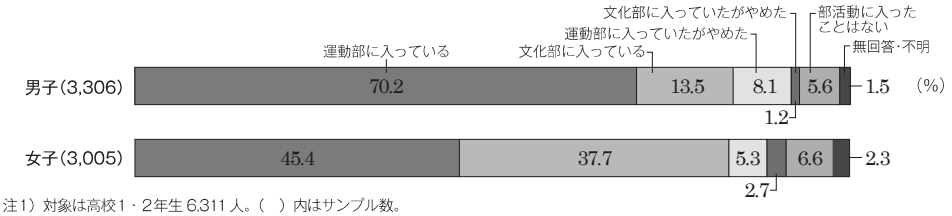


（資料出所:ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013 年 3 月）

② 部活動への参加状況

・部活動への参加状況は、男子よりも女子の方が文化部に参加する比率が高い。活動日数は、運動部は「５日」～「７日(毎日)」が90.8%であるのに対し、文化部は「ほとんど活動していない」～「７日(毎日)」まで回答にばらつきがある。

【部活動への参加状況（性別）（高等学校１・２年生）】



注1）対象は高校1・2年生6,311人。（　）内はサンプル数。

表2-1-1　部活動参加者の活動日数と活動時間(運動･文化部別)　高校1･2年生

活動日数　(%)

	ほとんど活動していない	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日(毎日)	無回答･不明
運動部 (4,116)	1.0	0.4	1.1	2.5	2.8	14.2	44.3	32.3	1.5
文化部 (1,701)	7.2	11.2	11.8	8.0	6.2	17.3	16.9	20.5	0.8

（5日～7日（毎日）：9割）

活動時間

	1時間未満	1時間くらい	1時間30分くらい	2時間くらい	2時間30分くらい	3時間くらい	3時間30分くらい	4時間くらい	4時間以上	無回答･不明
運動部 (4,116)	0.3	0.9	8.8	22.7	26.5	25.8	7.1	3.4	2.8	1.6
文化部 (1,701)	4.0	8.0	19.3	29.2	19.3	13.6	2.8	1.2	1.0	1.5

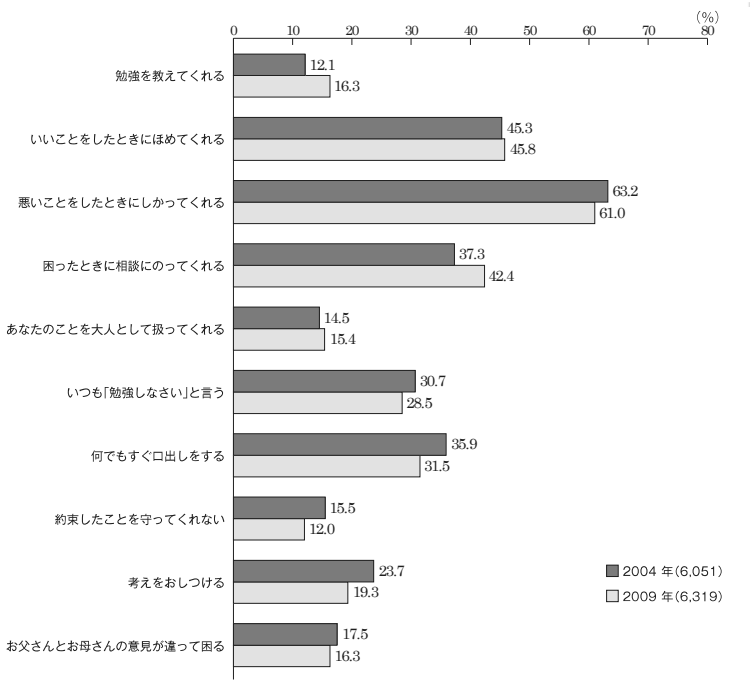
注1）「運動部」は「運動部に入っている」＋「運動部に入っていたがやめた」､「文化部」は「文化部に入っている」＋「文化部に入っていたがやめた」。
注2）対象は高校1・2年生5,817人。（　）内はサンプル数。

（資料出所:ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013 年 3 月）

③ 親子関係

・親との関係については、近年、「勉強を教えてくれる」や「困ったとき相談に乗ってくれる」が上昇している。他方、「何でもすぐに口出しをする」や「考えをおしつける」については低下している。

【親との関わり（高等学校１・２年生）】



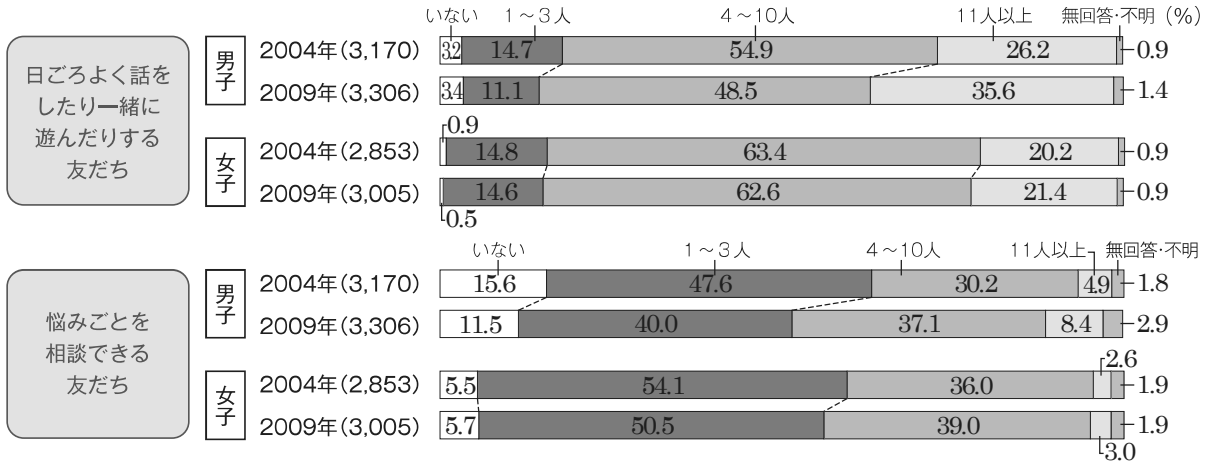
（資料出所:ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013 年 3 月）

④ 友人関係

・男子は、「日ごろよく話をしたり一緒に遊んだりする友だち」が11人以上いる比率や「悩みごとを相談できる友だち」が４人以上いる比率が高まっている。「グループの仲間同士で固まっていたい」や「仲間はずれにされないようには話を合わせる」も上昇している。

・女子は、「悩みごとを相談する友だち」が１～10人の比率が男子より高く、そのような友だちがいないという比率が低い。

【友だちの数（性別）（高等学校１・２年生）】



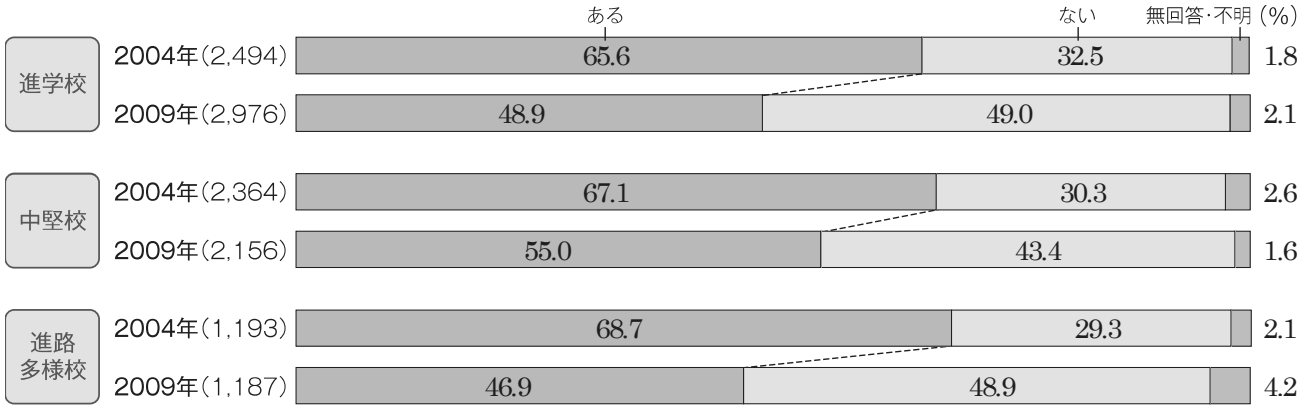
注1）「1～3人」は「1人」＋「2～3人」、「4～10人」は「4～6人」＋「7～10人」、「11人以上」は「11～20人」＋「21人以上」。
注2）対象は高校1・2年生。（　）内はサンプル数。

（資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月）

⑤ 将来なりたい職業の有無

・進学校で、将来なりたい職業が「ある」と回答した高校生の比率は2004年の65.6%から2009年は48.9%へと大きく落ち込んでいる。

【将来なりたい職業の有無（偏差値層別）（高校１・２年生）】



注1）「進学校」は偏差値60以上目安、「中堅校」は偏差値50～59目安、「進路多様校」は偏差値50未満目安。
注2）対象は高校1・2年生。（　）内はサンプル数。

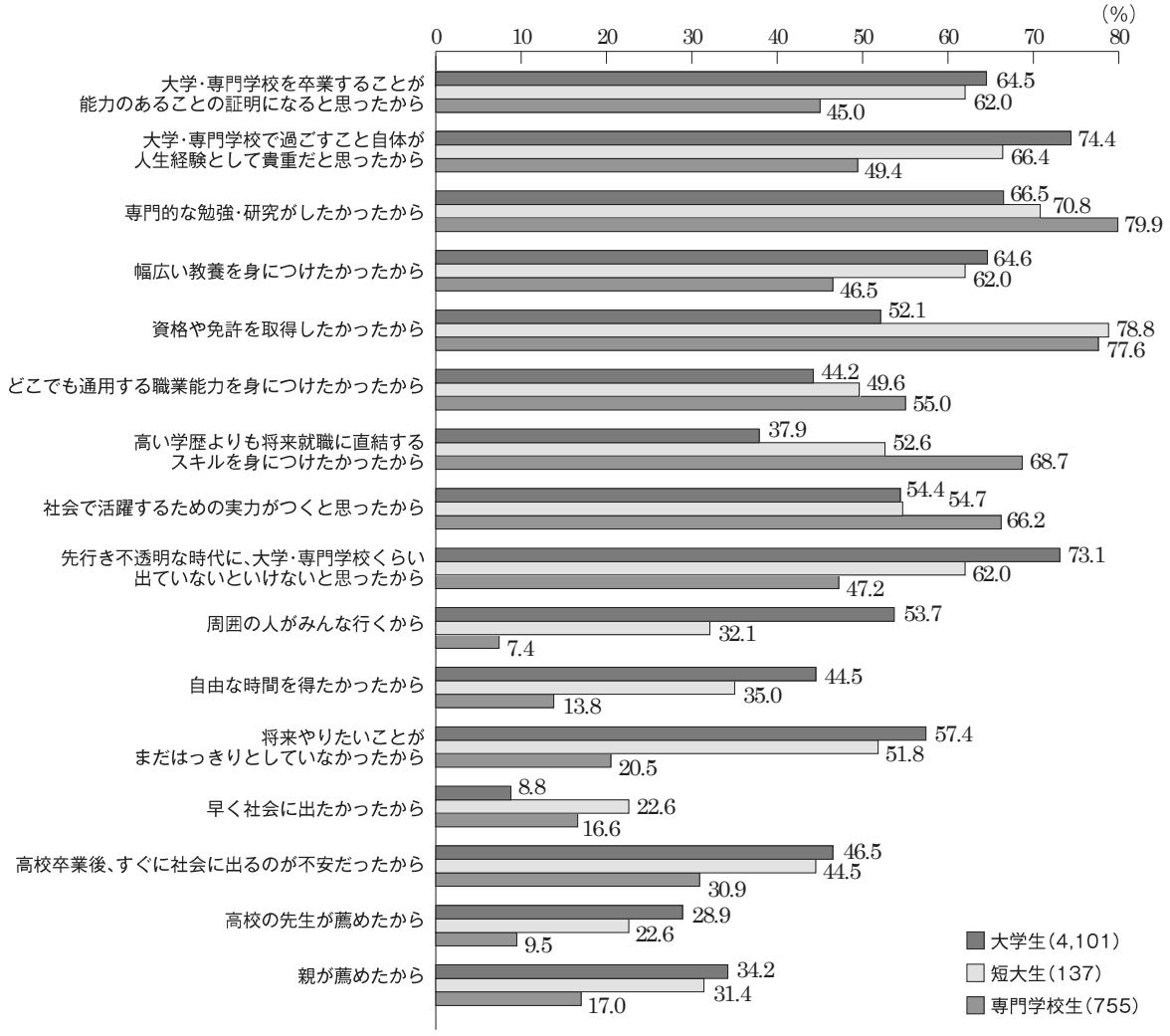
（資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月）

⑥高等教育機関への進学理由

・大学生の進学理由としては「大学で過ごすこと自体が人生経験として貴重だと思ったから」が74.4%と最も高い。次いで「先行き不透明な時代に、大学くらい出ていないといけないと思ったから」が73.1%である。

・短期大学生と専門学校生のそれぞれの学校への進学理由は、「資格や免許を取得したかったから」が短期大学生78.8%、専門学校生77.6%と高い。また、専門学校生の79.9%は、「専門的な勉強・研究がしたかったから」と回答している。

【大学・短期大学・専門学校への進学理由】



注1）「とてもあてはまる」＋「まああてはまる」の%。選択肢は「とてもあてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の５段階。
注2）対象は大学生 4,101 人、短大生 137 人、専門学校生 755 人。（　）内はサンプル数。

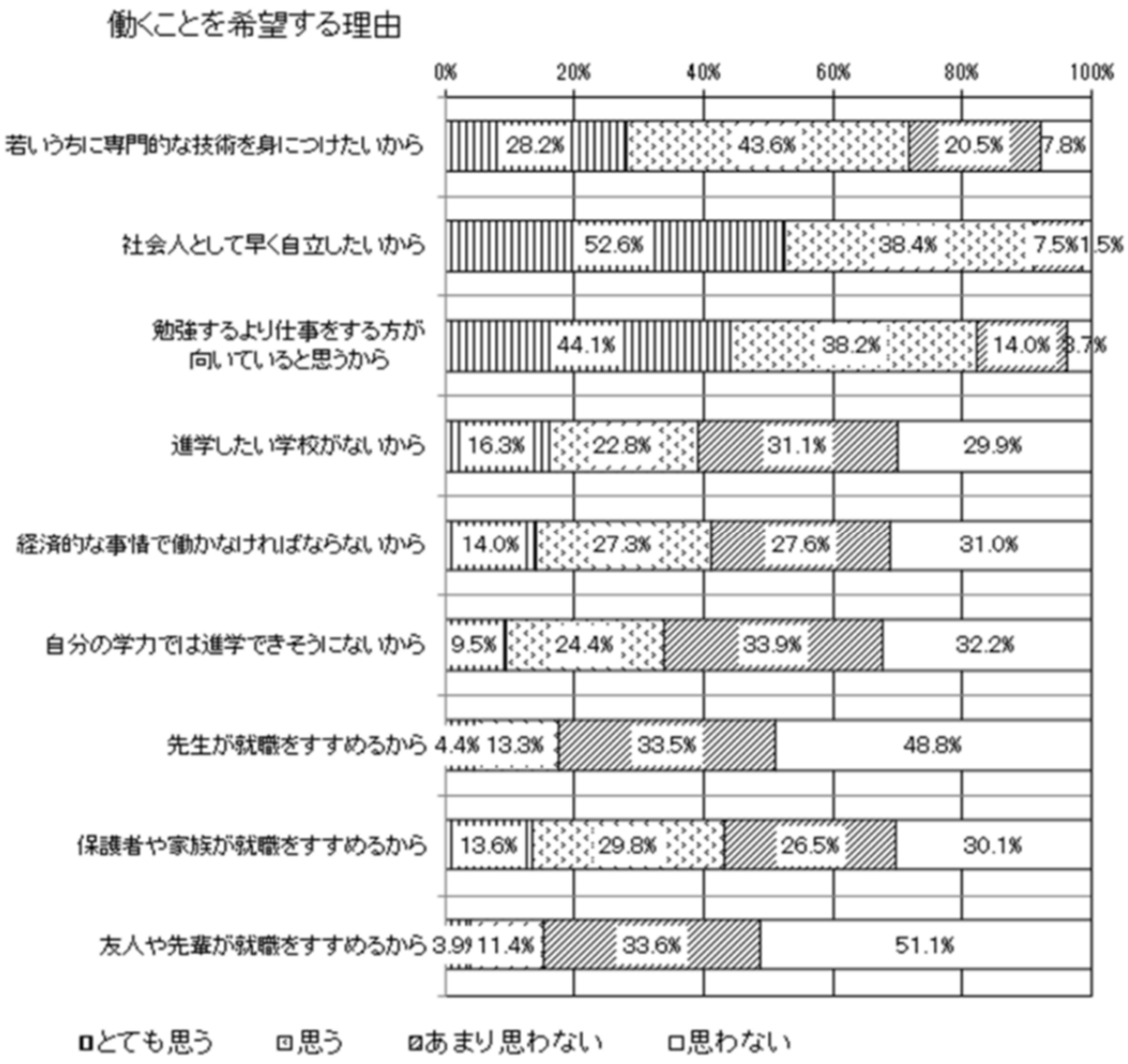
（資料出所:ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013 年 3 月）

⑦ 高等学校卒業後すぐに働くことを希望する理由

・高等学校を卒業した後で(進学しないで)働くことを希望する理由は、「社会人として早く自立したいから」と「とても思う」学生の割合が52.6%と最も高い。次いで、「勉強するより仕事をする方が向いていると思うから」が44.1%、「若いうちに専門的な技術を身につけたいから」が28.2%等である。

・「思う」と合せても上位３つの順位は同じで、「保護者や家族が就職をすすめるから」が43.4%、「経済的な事情で働かなければならないから」が41.3%である。

【高等学校を卒業した後すぐに働くことを希望する理由】



（資料出所:国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013 年 3 月）

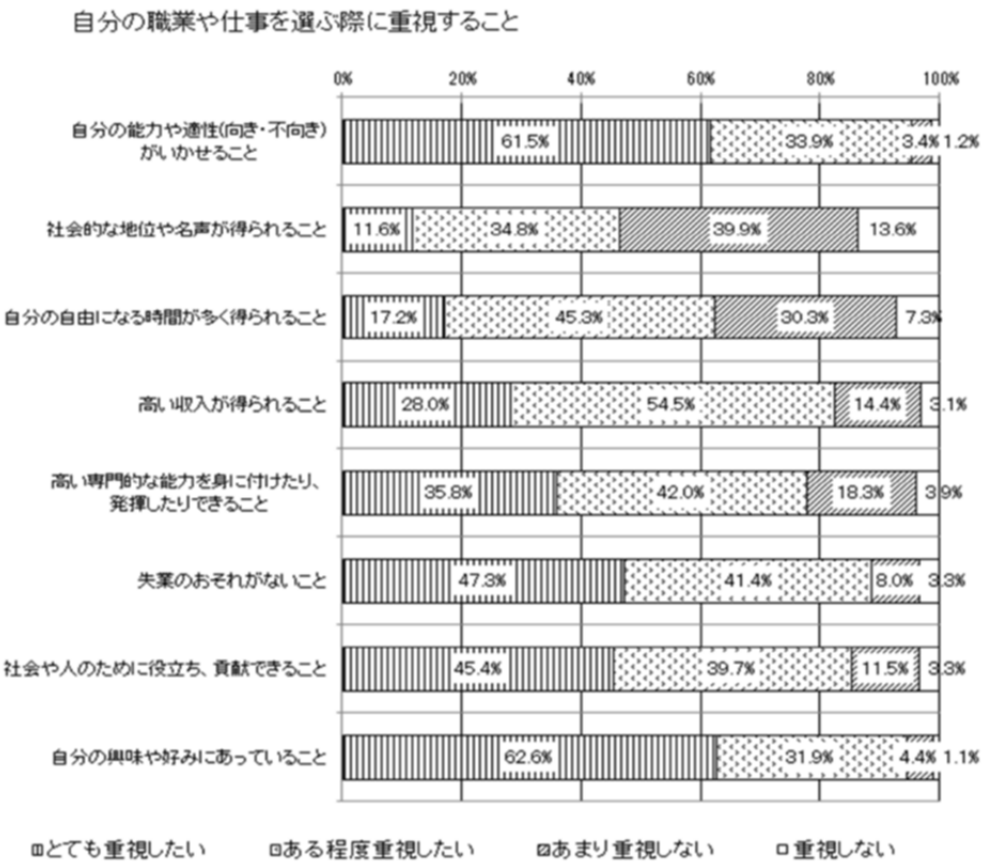
⑧自分の職業や仕事を選ぶ際に重視すること

・「とても重視したい」について、「自分の興味や好みにあっていること」が62.6%、「自分の能力や適性(向き・不向き)がいかせること」が61.5%、「失業のおそれがないこと」が47.3%、「社会や人のために役立ち、貢献できること」が45.4%等である。

・「ある程度重視したい」も含めると、「自分の能力や適性(向き・不向き)がいかせること」が最も高く95.4%である。次いで、「自分の興味や好みにあっていること」が94.5%、「失業のおそれがないこと」が88.7%「社会や人のために役立ち、貢献できること」が85.1%、「高い収入が得られること」が82.5%等である。

・逆に、「社会的な地位や名声が得られること」は、「あまり重視しない」「重視しない」生徒の合計が53.5%である。

【自分の職業や仕事を選ぶ際に重視すること】

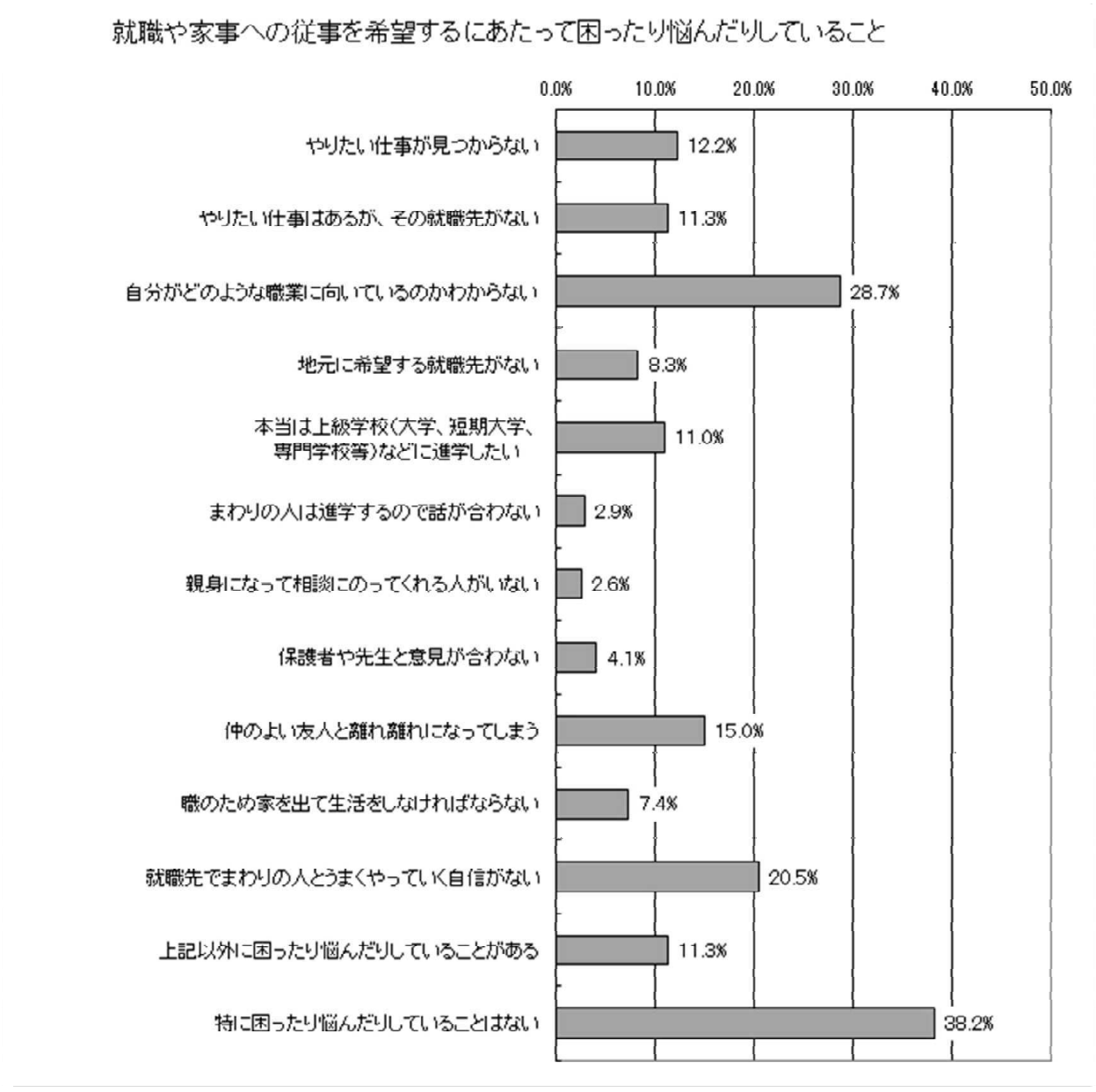


（資料出所:国立教育政策研究所生徒指導進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

⑨就職等を希望するにあたって困ったり悩んだりしていること

・「特に困ったり悩んだりしていることはない」が38.2%と最も高い。次いで「自分がどのような職業に向いているのかわからない」が28.7%、「就職先でまわりの人とうまくやっていく自信がない」が20.5%等である。

【就職や家事への従事を希望するにあたって困ったり悩んだりしていること】



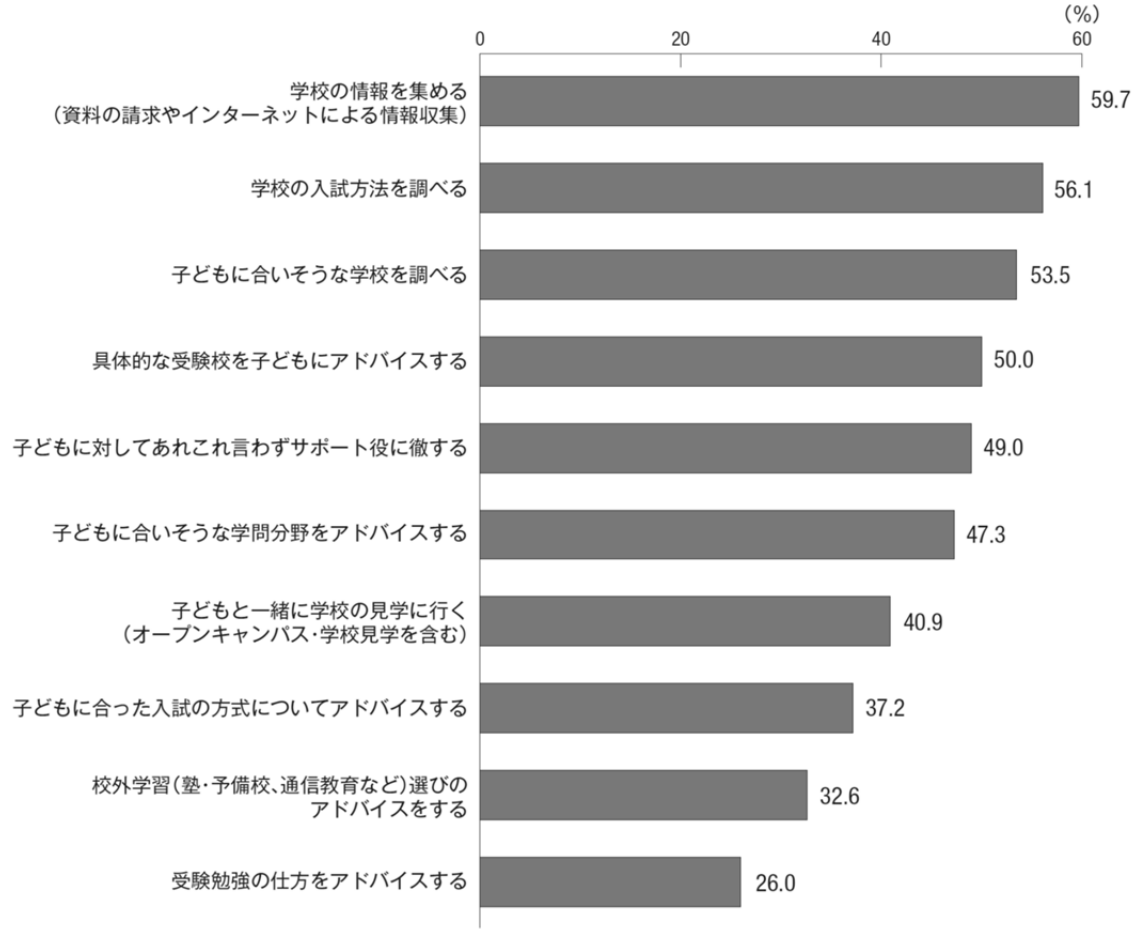
(資料出所:国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

⑩ 子どもの進路選択に対する保護者の関与

・子どもの進路選択に関して親がしていることは、「学校の情報を集める(資料の請求やインターネットによる情報収集)」が59.7%、「学校の入試方法を調べる」が56.1%、「子どもに合いそうな学校を調べる」が53.5%、「具体的な受験校を子どもにアドバイスする」が50.0%等である。

・「受験勉強の仕方をアドバイスする」は26.0%と最も比率が低い。

【子どもの進路選択に関して親がしていること】



注1）「とてもあてはまる」＋「まああてはまる」の%。選択肢は「とてもあてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の5段階。
注2）対象は子どもに大学進学を希望する高校1～3年生の保護者 3,297 人。
「高校生と保護者の学習・進路に関する意識調査」(2011)

（資料出典:ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック2013」2013年3月）

3　高校生の進路

①　進路先（現役生）

・高等学校卒業者の「大学・短期大学進学率」は、2010年（平成22年）の54.3％をピークに微減し、2013年（平成25年）3月卒では53.2％であったが、2015年（平成27年）3月卒では54.6％に回復した。

・「就職率」は2010年（平成10年）以降緩やかに上昇し、2015年（平成27年）は17.7％、「専門学校進学率」はここ数年ほぼ横ばいであり、2015年（平成27年）は16.7％である。

・「一時的な仕事に就いた者」と「進学も就職もしていない者」の合計は、2015年（平成27年）は56,337人であり、卒業者全体のうち5.3％であった。

（単位：人,％）

区　分	卒業者	大学・短大進学者(率)	うち大学(学部)進学者(率)	専門学校進学者(率)	就職者(卒業者に占める就職者の割合)	うち正規の職員等でない者(率)	一時的な仕事に就いた者(率)	進学も就職もしていない者(率)	その他(率)
平成18年3月	1,172,087	578,525 (49.4)	490,242 (41.8)	213,122 (18.2)	210,442 (18.0)	… (…)	19,232 (1.6)	66,434 (5.7)	85,956 (7.3)
19年3月	1,148,108	587,999 (51.2)	505,951 (44.1)	193,156 (16.8)	212,635 (18.5)	… (…)	16,358 (1.4)	59,962 (5.2)	79,491 (6.9)
20年3月	1,089,188	575,659 (52.9)	500,631 (46.0)	167,092 (15.3)	206,628 (19.0)	… (…)	12,862 (1.2)	53,757 (4.9)	74,452 (6.8)
21年3月	1,065,412	574,333 (53.9)	503,840 (47.3)	156,363 (14.7)	193,615 (18.2)	… (…)	13,592 (1.3)	54,678 (5.1)	74,035 (6.9)
22年3月	1,071,422	582,272 (54.3)	513,013 (47.9)	170,352 (15.9)	168,727 (15.7)	… (…)	15,560 (1.5)	59,703 (5.6)	76,112 (7.1)
23年3月	1,064,074	573,679 (53.9)	507,509 (47.7)	172,200 (16.2)	173,566 (16.3)	… (…)	14,994 (1.4)	56,965 (5.4)	73,865 (6.9)
24年3月	1,056,387	565,779 (53.6)	503,545 (47.7)	177,486 (16.8)	176,931 (16.7)	… (…)	13,892 (1.3)	51,922 (4.9)	71,384 (6.8)
25年3月	1,091,614	581,144 (53.2)	517,416 (47.4)	185,588 (17.0)	184,656 (16.9)	… (…)	13,623 (1.2)	53,951 (4.9)	73,637 (6.7)
26年3月	1,051,343	566,309 (53.9)	505,240 (48.1)	178,735 (17.0)	183,635 (17.5)	… (…)	11,957 (1.1)	47,795 (4.5)	63,793 (6.1)
27年3月	1,068,989	583,533 (54.6)	522,656 (48.9)	178,069 (16.7)	189,739 (17.7)	2,062 (0.2)	9,616 (0.9)	46,721 (4.4)	62,085 (5.8)

（資料出所：文部科学省「平成27年度学校基本調査」2015年12月）

②　高等学校学科別進路先

・普通科卒業者は、大学等と専修学校専門課程への進学率がおよそ80％を占めている。

・看護学科は95％が進学しており、就職者の割合が５％と最も低い。

・農業、工業、水産、福祉の各科は就職者の割合が50％を超えている。

区　分	計	大学等進学者 (A)	うち大学・短期大学の通信教育部への進学者を除く進学者	専修学校(専門課程)進学者 (B)	専修学校(一般課程)等入学者 (C)	公共職業能力開発施設等入学者 (D)	就職者 正規の職員等	就職者 正規の職員等でない者	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者	不詳・死亡の者	大学等進学率 (%)	大学・短期大学の通信教育部への進学者を除く進学率 (%)	専修学校(専門課程)進学率 (%)	卒業者に占める就職者の割合 (%)	区　分
計	1,064,376	579,938	579,540	177,827	54,990	6,376	186,960	1,945	9,615	46,496	229	54.5	54.4	16.7	17.8	計
普通	774,721	495,329	495,030	118,191	47,677	3,439	64,625	1,040	6,656	37,586	178	63.9	63.9	15.3	8.5	普通
農業	26,312	3,642	3,633	6,331	735	475	14,041	135	307	645	1	13.8	13.8	24.1	54.1	農業
工業	82,217	11,884	11,866	11,444	823	1,435	54,370	153	581	1,511	16	14.5	14.4	13.9	66.4	工業
商業	67,351	17,377	17,360	17,136	1,239	292	28,649	275	708	1,658	17	25.8	25.8	25.4	43.1	商業
水産	2,954	439	439	354	28	86	1,952	16	21	58	－	14.9	14.9	12.0	66.6	水産
家庭	13,917	3,517	3,513	4,134	324	36	5,177	84	153	489	3	25.3	25.2	29.7	38.0	家庭
看護	4,600	3,994	3,994	375	11	－	159	2	5	54	－	86.8	86.8	8.2	5.0	看護
情報	927	363	362	278	29	14	199	1	11	31	1	39.2	39.1	30.0	21.6	情報
福祉	3,030	552	550	780	45	16	1,526	21	14	76	－	18.2	18.2	25.7	51.3	福祉
その他	34,406	23,611	23,596	3,527	2,939	73	1,977	22	147	2,107	3	68.6	68.6	10.3	5.8	その他
総合学科	53,941	19,230	19,197	15,277	1,140	510	14,285	196	1,012	2,281	10	35.7	35.6	28.3	27.0	総合学科

（資料出所：文部科学省「平成27年度学校基本調査」2015年12月）

②　道府県別の進路先

・2015年（平成27年）３月卒業者の全国平均の大学等進学率は54.5％（大学（学部）進学率は48.8％）、専修学校（専門課程）進学率は16.7％である。
・大都市圏（関東の一都三県、近畿の二府等）では、全国平均よりも大学等進学率が高く、就職率が低くなっているのに対し、東北・山陰・九州（福岡県を除く）では、全国平均よりも専修学校進学率と就職率が高く、大学等進学率が低いという傾向がある。
・就職者総数のうち、県外（出身高等学校が所在する県以外の県）へ就職した者は34,916人で、就職者総数の18.4％を占めており、前年度より0.5ポイント上昇している。

【高等学校卒業者の都道府県別進学率と就職率】

区分	大学等進学率（％）	大学（学部）進学率(％)	専修学校（専門課程）進学率(％)	卒業者に占める就職者の割合（％）	区分	大学等進学率（％）	大学（学部）進学率(％)	専修学校（専門課程）進学率(％)	卒業者に占める就職者の割合（％）
北海道	42.4	36.7	23.7	23.4	京都	66.4	60.6	13.7	8.6
青森	44.0	36.3	14.5	32.6	大阪	59.4	52.9	15.1	11.7
岩手	42.7	35.6	20.0	30.6	兵庫	60.8	55.5	13.9	13.8
宮城	48.8	44.4	16.5	23.9	奈良	60.0	53.2	12.5	11.7
秋田	44.4	37.0	17.3	29.7	和歌山	47.6	41.0	19.0	21.9
山形	45.1	38.3	18.4	29.5	鳥取	42.0	33.1	19.9	25.7
福島	44.3	38.1	19.6	29.4	島根	46.3	38.4	21.0	23.2
茨城	49.7	46.2	18.9	21.6	岡山	50.7	44.5	17.1	22.8
栃木	52.0	47.4	17.5	21.8	広島	60.0	55.0	14.0	14.8
群馬	52.1	46.4	19.1	19.6	山口	43.4	36.8	16.7	30.1
埼玉	57.2	52.3	17.4	14.4	徳島	49.4	44.2	18.1	23.8
千葉	55.5	51.2	18.5	13.5	香川	51.1	44.0	16.4	20.1
東京	66.8	63.9	11.9	6.6	愛媛	52.0	44.6	19.2	22.2
神奈川	61.7	57.1	16.5	8.1	高知	46.9	38.4	19.2	18.3
新潟	46.7	41.4	26.5	19.6	福岡	54.3	46.7	15.2	18.1
富山	52.0	43.6	17.8	22.2	佐賀	43.5	37.2	17.6	32.0
石川	54.3	47.0	14.7	21.4	長崎	41.3	35.3	19.5	30.7
福井	55.3	46.6	14.4	23.8	熊本	45.6	39.7	18.1	26.0
山梨	57.0	50.9	17.0	17.3	大分	47.0	36.0	21.0	26.3
長野	48.1	38.9	22.2	18.5	宮崎	43.6	35.1	16.7	30.2
岐阜	56.1	48.2	13.8	23.6	鹿児島	42.2	30.1	20.0	27.4
静岡	53.9	49.1	16.3	22.0	沖縄	39.8	35.6	26.6	16.2
愛知	58.8	53.8	13.1	18.7	全国	54.5	48.8	16.7	17.8
三重	51.5	45.3	14.1	26.3	男	52.1	51.0	13.0	21.5
滋賀	55.5	48.6	16.6	18.5	女	56.9	46.6	20.4	14.1

（注）大学進学率とは，大学・短期大学の通信教育部への進学者を含む。

（資料出所：文部科学省「平成27年度学校基本調査」2015年12月）

④大学入学時の選抜状況

・2015年（平成27年）5月における大学(学部)入学者608,078人のうち、一般入試(学力選抜)で入学した者は340,974人(全体の56.1%)である。

・設置者別にみると、2015年4月大学入学者のうち、私立大学では51.0%、公立大学では26.8%、国立大学では15.4%が、入学に際して、「学力選抜」を受けていない。

Ⅰ．総括表

（　）は前年度の数値

区　分	募集人員 A	入学志願者数 B	志願倍率 B／A	受験者数	合格者数	入学者数 C	過△欠員 C－A
	人	人	倍	人	人	人	人
国立大学	(96,348)	(395,116)	(4.1)	(297,193)	(108,139)	(99,868)	(3,520)
[82大学 387学部]	96,245	388,690	4.0	290,592	108,271	99,617	3,372
公立大学	(28,421)	(157,843)	(5.6)	(116,609)	(37,864)	(30,201)	(1,780)
[84大学 186学部]	28,803	154,372	5.4	114,275	38,421	30,734	1,931
小計	(124,769)	(552,959)	(4.4)	(413,802)	(146,003)	(130,069)	(5,300)
[166大学 573学部]	125,048	543,062	4.3	404,867	146,692	130,351	5,303
私立大学	(454,334)	(3,492,896)	(7.7)	(3,357,758)	(1,194,584)	(469,165)	(14,831)
[580大学 1,697学部]	458,897	3,546,046	7.7	3,406,855	1,242,033	477,727	18,830
合計	(579,103)	(4,045,855)	(7.0)	(3,771,560)	(1,340,587)	(599,234)	(20,131)
[746大学 2,270学部]	583,945	4,089,108	7.0	3,811,722	1,388,725	608,078	24,133

Ⅱ．各選抜毎の実施状況

〔一般入試〕

区　分	募集人員 A	入学志願者数 B	志願倍率 B／A	受験者数	合格者数	入学者数 C	過△欠員 C－A
	人	人	倍	人	人	人	人
国立大学	(80,948)	(351,457)	(4.3)	(256,739)	(92,529)	(84,438)	(3,490)
	80,906	345,039	4.3	250,185	92,812	84,308	3,402
公立大学	(20,688)	(137,875)	(6.7)	(97,069)	(29,714)	(22,109)	(1,421)
	20,959	133,347	6.4	93,598	30,125	22,494	1,535
小計	(101,636)	(489,332)	(4.8)	(353,808)	(122,243)	(106,547)	(4,911)
	101,865	478,386	4.7	343,783	122,937	106,802	4,937
私立大学	(255,959)	(3,027,989)	(11.8)	(2,899,846)	(913,620)	(232,867)	(△23,092)
	259,992	3,051,817	11.7	2,920,297	949,144	234,172	△25,820
合計	(357,595)	(3,517,321)	(9.8)	(3,253,654)	(1,035,863)	(339,414)	(△18,181)
	361,857	3,530,203	9.8	3,264,080	1,072,081	340,974	△20,883

（資料出所：文部科学省「平成27年度国公私立大学入学者選抜実施状況」2015年5月）

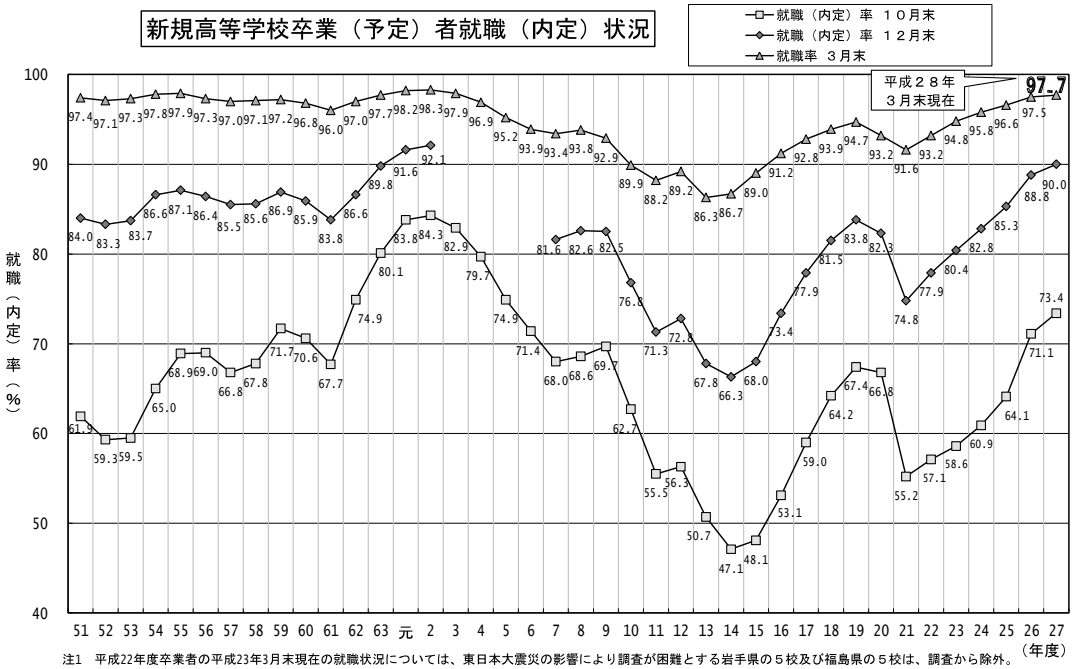
⑤就職内定率及び高校新卒者のハローワーク求人に係る求人数・求職者数・求人倍率の推移（2016 年３月末現在）

・2016年（平成28年）３月卒の高校新卒者の就職率は97.7％（前年同期比で0.2％増）で1992年（平成４年）３月卒業者以来24年ぶりの水準となっている。

・2016年（平成28年）３月卒の高校新卒者のハローワーク求人に係る求人数は35.3万人で前年度比11.7％の増、求職者数は17.3万人で同1.0％の増となっている。

・高校新卒者のハローワーク求人に係る求人倍率をみると、バブル景気の頃には３倍前後あったものが、その後低下し、2000年代前半の景気の回復に伴う上昇と、2008年（平成20年）秋のリーマンショックの影響による低下を経て、2016年３月卒の高校新卒者のハローワーク求人に係る求人倍率は2.04倍となっている。

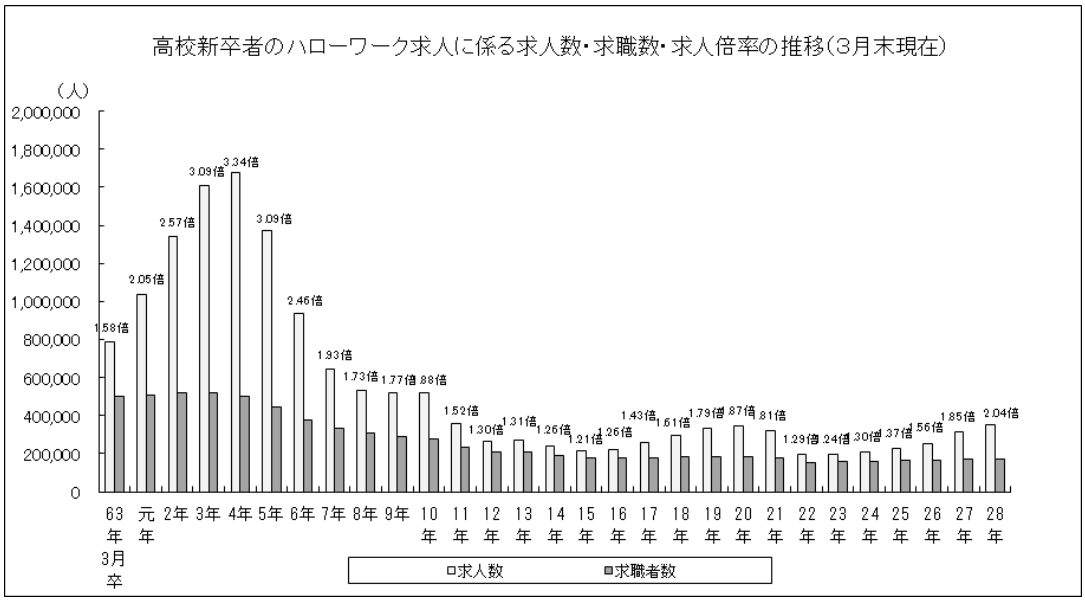
【新規高等学校卒業（予定）者就職（内定）状況】



注1　平成22年度卒業者の平成23年3月末現在の就職状況については、東日本大震災の影響により調査が困難とする岩手県の５校及び福島県の５校は、調査から除外。
注2　平成3年度から平成6年度の4年間については、都道府県等の事務負担軽減を図るため年3回の調査を年2回として実施。

（資料出所：文部科学省「大学等卒業者及び高校卒業者の就職状況調査」2016年5月）

【高等学校卒就職者に対する求人数・求職者数、求人倍率・就職内定率の推移】

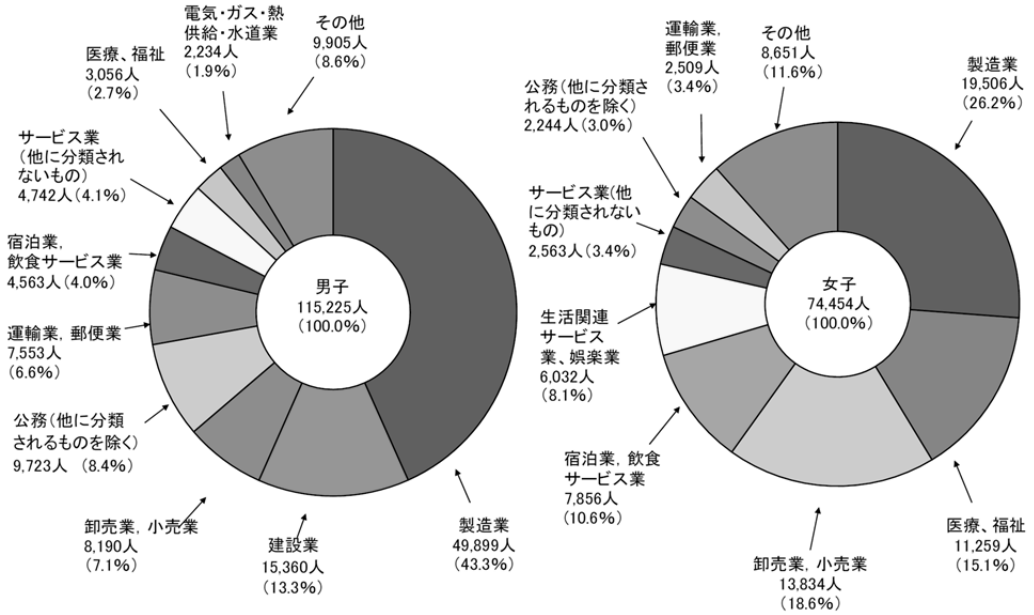


（資料出所：厚生労働省「平成27年度『高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況』取りまとめ」2016年５月）

⑥ 就職者の産業別就職者数

・男子の就職者115,225人のうち、製造業が49,899人(43.3%)、建設業が15,360人(13.3%)、公務(他に分類されるものを除く)が9,723人(8.4%)、卸売業、小売業が8,190人（7.1%)、運輸業、郵便業が7,553人(6.6%)等の順である。

・女子の就職者74,454人のうち、製造業が19,506人(26.2%)、卸売業、小売業が13,834人(18.6%)、医療、福祉が11,259人(15.1%)、宿泊業、飲食サービス業が7,856人(10.6%)、生活関連サービス業、娯楽業が6,032人(8.1%)等の順である。



(資料出所:文部科学省「平成27年度学校基本調査」2015年12月)

第２節　高等教育機関等での教育と社会への移行における課題の理解

１　高等教育機関等での教育

①　関係学科別学部学生の比率（4年制大学）

・2015年（平成27年）度における4年制大学学生の関係学科別学生数の比率は、高い順に、社会科学32.4%、工学15.2%、人文科学14.4%となっているが、近年、これらの学科の比率が低下し、教育、薬学の学生構成比が上昇している。

【関係学科・専攻分野別学生数の比率の推移（4年生大学）】

（単位：%）

区　分	関係学科別学生の構成比											
	計	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	家政	教育	芸術	その他
平成17年度	100.0	16.2	37.7	3.5	17.3	2.8	2.5	1.8	2.4	5.7	2.9	7.3
22	100.0	15.2	34.9	3.2	15.7	3.0	2.5	2.4	2.7	6.5	2.8	11.2
23	100.0	15.0	34.2	3.2	15.4	2.9	2.6	2.8	2.7	6.7	2.8	11.7
24	100.0	14.8	33.7	3.2	15.2	3.0	2.6	2.9	2.7	7.0	2.8	12.2
25	100.0	14.7	33.1	3.1	15.2	3.0	2.7	2.9	2.8	7.2	2.7	12.6
26	100.0	14.5	32.7	3.2	15.2	3.0	2.7	3.0	2.8	7.3	2.7	12.9
27	**100.0**	**14.4**	**32.4**	**3.1**	**15.2**	**2.9**	**2.8**	**3.0**	**2.8**	**7.4**	**2.7**	**13.2**

（資料出所：文部科学省「平成 27 年度学校基本調査」2015 年 12 月）

②　関係学科別学生数の比率（短期大学本科生）

・2015年（平成27年）度における短期大学本科生の関係学科別学生数の比率は、高い順に、教育が37.8%、家政が18.5%、保健が9.8%、人文が9.3%となっている。

・近年、社会、工業、家政の比率が低下し、教育の比率が上昇している。

【関係学科別学生数の比率の推移（短期大学本科生）】

（単位：%）

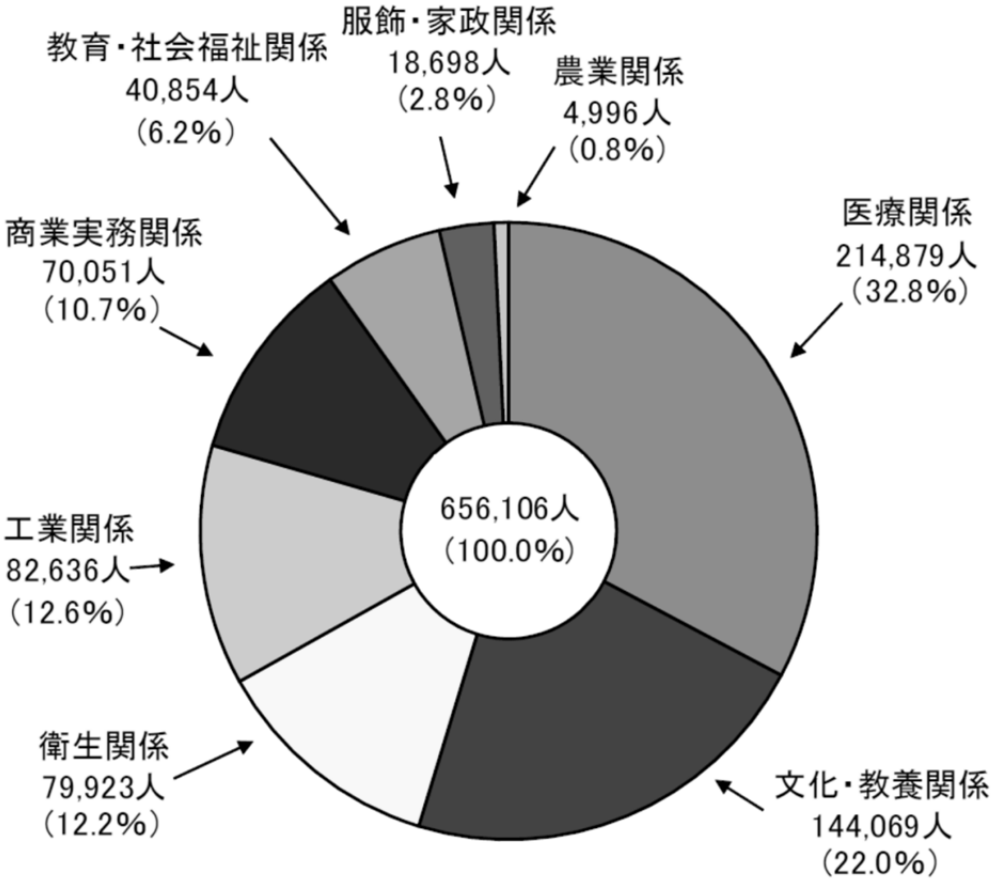
区　分	関係学科別学生の構成比										
	計	人文	社会	教養	工業	農業	保健	家政	教育	芸術	その他
平成17年度	100.0	13.1	12.3	1.4	4.6	1.0	8.3	21.1	29.6	4.2	4.5
22	100.0	11.8	11.9	1.4	3.0	0.9	8.3	20.1	30.4	4.1	8.0
23	100.0	10.9	11.0	1.4	2.9	0.9	9.0	19.5	33.1	4.0	7.4
24	100.0	10.1	10.0	1.5	2.7	1.0	9.5	18.9	35.6	3.6	7.0
25	100.0	9.2	9.8	1.9	2.7	1.0	9.7	18.9	36.2	3.5	7.1
26	100.0	9.3	9.1	1.9	2.6	1.0	9.7	18.6	37.4	3.3	7.0
27	**100.0**	**9.3**	**8.7**	**2.0**	**2.6**	**1.0**	**9.8**	**18.5**	**37.8**	**3.4**	**7.0**

（資料出所：文部科学省「平成27年度学校基本調査」2015年12月）

③ 専修学校の専攻分野別生徒数

・専修学校の生徒数を分野別にみると、「医療関係」が214,879人(全生徒数の32.8%)と最も多く、次いで「文化・教養関係」が144,069人(同22.0%)、「衛生関係」が79,923人(同12.2%)、「工業関係」が82,636人(同12.6%)等である。

【専修学校の分野別生徒数】



(資料出所:文部科学省「平成 27 年度学校基本調査」2015 年 12 月)

④　高等技術専門校での教育

・高等学校卒業者を対象として、高度職業訓練を行う 2 年制の専門課程(2,800 時間)を置く公共職業能力開発施設は、職業能力開発大学校(10 校)と職業能力開発短期大学校等(26 校)があり、制度上、機械システム系、電子情報制御システム系、居住システム系等、29 の専攻科が存在している。

・2015 年（平成 27 年）3 月高等学校卒業者のうち、公共職業能力開発施設等に入学したのは 6,376 人である。

(参考：厚生労働省ホームページ「学卒者訓練の概要」http://www.mhlw.go.jp/bunya/nouryoku/gakusotu/

及び文部科学省「平成 27 年度学校基本調査」2015 年 12 月を基に作成)

２　卒業生の進路

①　大学学部卒業者の状況別推移

・2015 年（平成 27 年）３月大学学部卒業者を状況別にみると、卒業者 564,035 人のうち、「進学者」が 62,238 人(全卒業者の 11.0%)、「就職者」が 409,710 人(同 72.6%)、「一時的な仕事に就いた者」が 11,730 人(同 2.1%)、「左記以外の者」が 58,102 人(同 10.3%)等である。

・卒業者のうち、「正規の職員でない者」「一時的な仕事に就いた者」「就職も進学もしていない者」を合算すると、90,964 人となり、安定的な雇用に就いていない者の卒業者に占める割合は 16.1%(前年度は 18.6%)である。

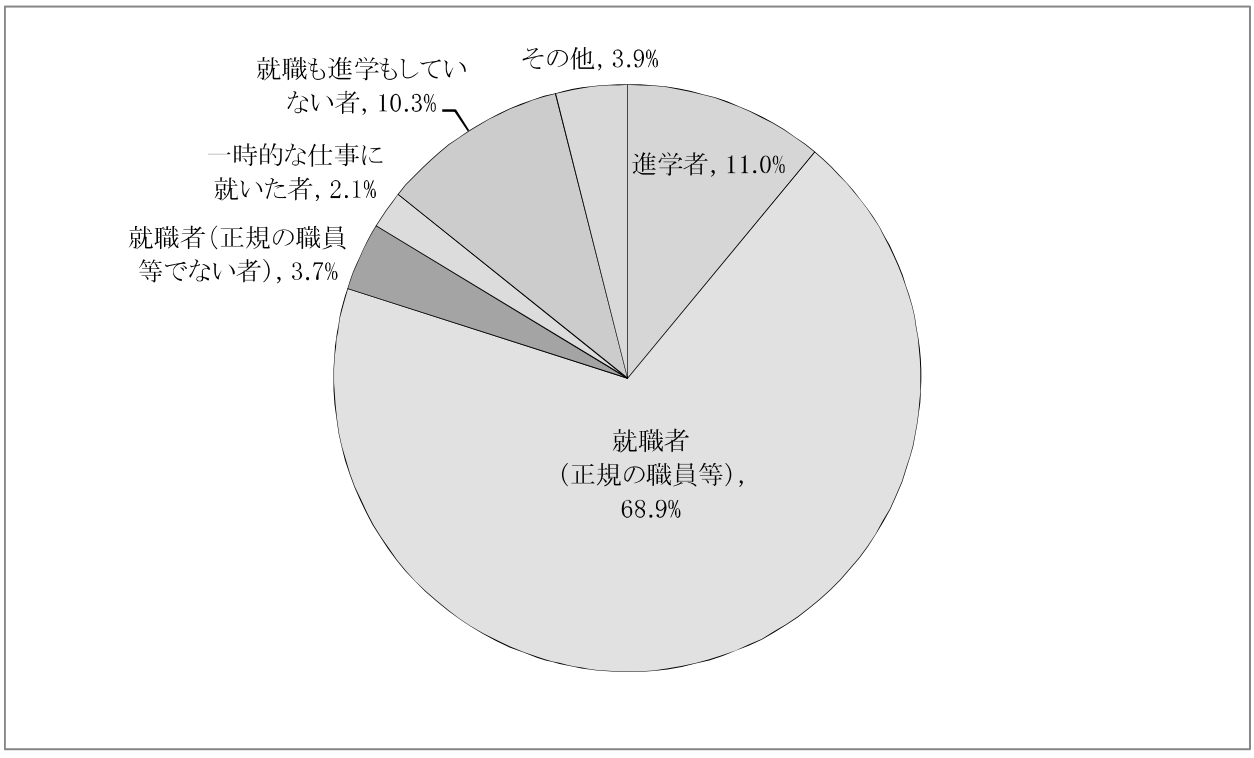
【大学（学部）卒業後の状況】

（単位：人，%）

区　分	計（a）	進学者(b)	就職者（c）		臨　床研修医(予定者を含む)	専修学校・外国の学校等入学者	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者	不詳・死亡の者	(再掲）左記「進学者」のうち就職している者(d)		進学率	卒業者に占める就職者の割合(c+d)/a×100		
			正規の職員等	正規の職員等でない者						正規の職員等	正規の職員等でない者	b/a×100	計	男	女
平成17年３月	551,016	66,108	329,045		7,903	12,061	19,507	97,994	18,398	80		12.0	59.7	56.6	64.1
22	541,428	72,539	329,132		8,944	13,500	19,332	87,174	10,807	58		13.4	60.8	56.4	66.6
23	552,358	70,465	340,143		8,923	12,192	19,107	88,007	13,521	74		12.8	61.6	57.0	67.6
24	558,692	65,683	335,048	21,963	8,893	11,173	19,569	86,566	9,797	47	30	11.8	63.9	58.9	70.2
25	558,853	63,334	353,125	22,734	8,984	9,488	16,736	75,929	8,523	50	48	11.3	67.3	62.3	73.4
26	565,573	63,027	372,509	22,259	8,899	8,360	14,519	68,484	7,516	60	17	11.1	69.8	64.9	75.8
27	**564,035**	**62,238**	**388,578**	**21,132**	**9,056**	**6,720**	**11,730**	**58,102**	**6,479**	**33**	**16**	**11.0**	**72.6**	**67.8**	**78.5**

（注）１　「進学者」とは，大学院研究科，大学学部，短期大学本科，大学・短期大学の専攻科，別科へ入学した者である。
２　就職者のうち「正規の職員等でない者」とは，雇用の期間が１年以上の期間の定めがある者で，かつ１週間の所定労働時間が40～30時間の者をいう。
３　「左記以外の者」とは，進学でも就職でもないことが明らかな者である　（進学準備中の者，就職準備中の者，家事の手伝いなど）。

【大学（学部）状況別卒業者の比率】



（資料出所：文部科学省「平成 27 年度学校基本調査」2015 年 12 月）

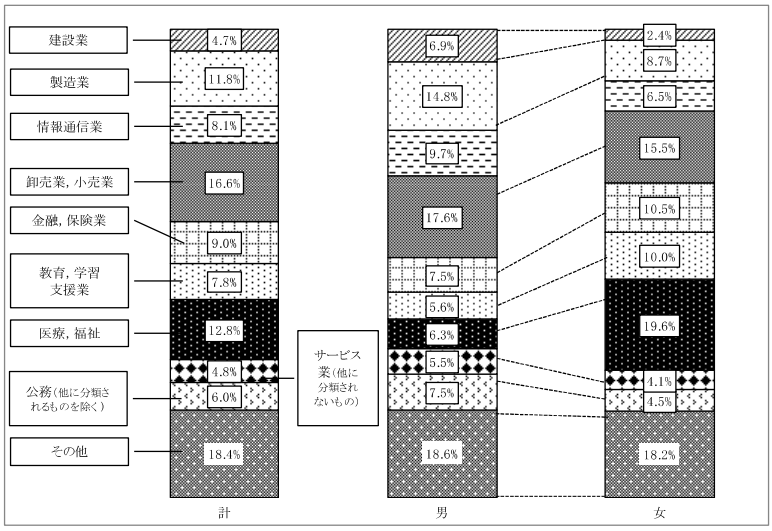
②　大学学部卒業生の産業別就職者数

・2015年（平成27年）３月就職者総数を産業別にみると、「卸売業、小売業」が16.6%（68,019人）と最も高く、次いで「医療、福祉」が12.8%（524,449人）、「製造業」が11.8%（48,351人）、「金融・保険業」が9.0%（36,878人）等の順である。

・男女別では、男子は「卸売業、小売業」が17.6%、「製造業」が14.8%、「情報通信業」が9.7%等の順であり、女子は「医療、福祉」が19.6%、「卸売業、小売業」が15.5%、「金融、保険業」が10.5%等の順である。

【大学（学部）卒業者の産業別就職者の比率】

（平成 27 年３月）



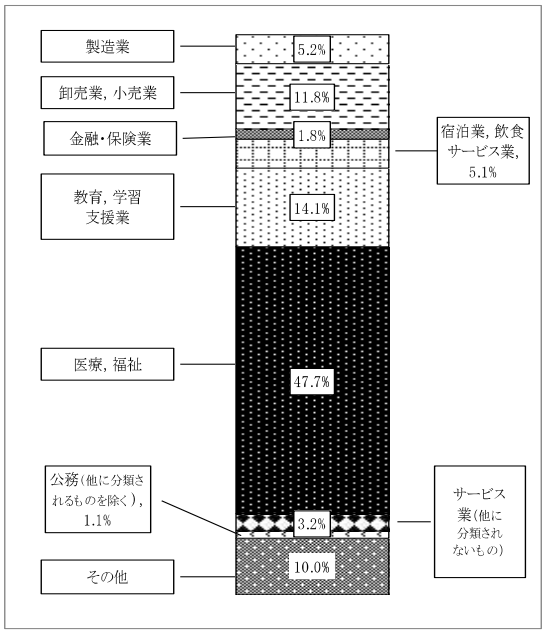
（資料出所:
文部科学省「平成 27 年度学校基本調査」
2015 年 12 月を基に作成）

③　短期大学生の産業別就職者数

・2015年（平成27年）３月短期大学(本科)卒業の就職者総数を産業別にみると、「医療、福祉」が47.7%（22,138人）と最も高く、次いで「教育、学習支援業」が14.1%（6,544人）、「卸売業、小売業」が11.8%（5,476人）等の順である。

【短期大学（本科）卒業者の産業別就職者の比率】

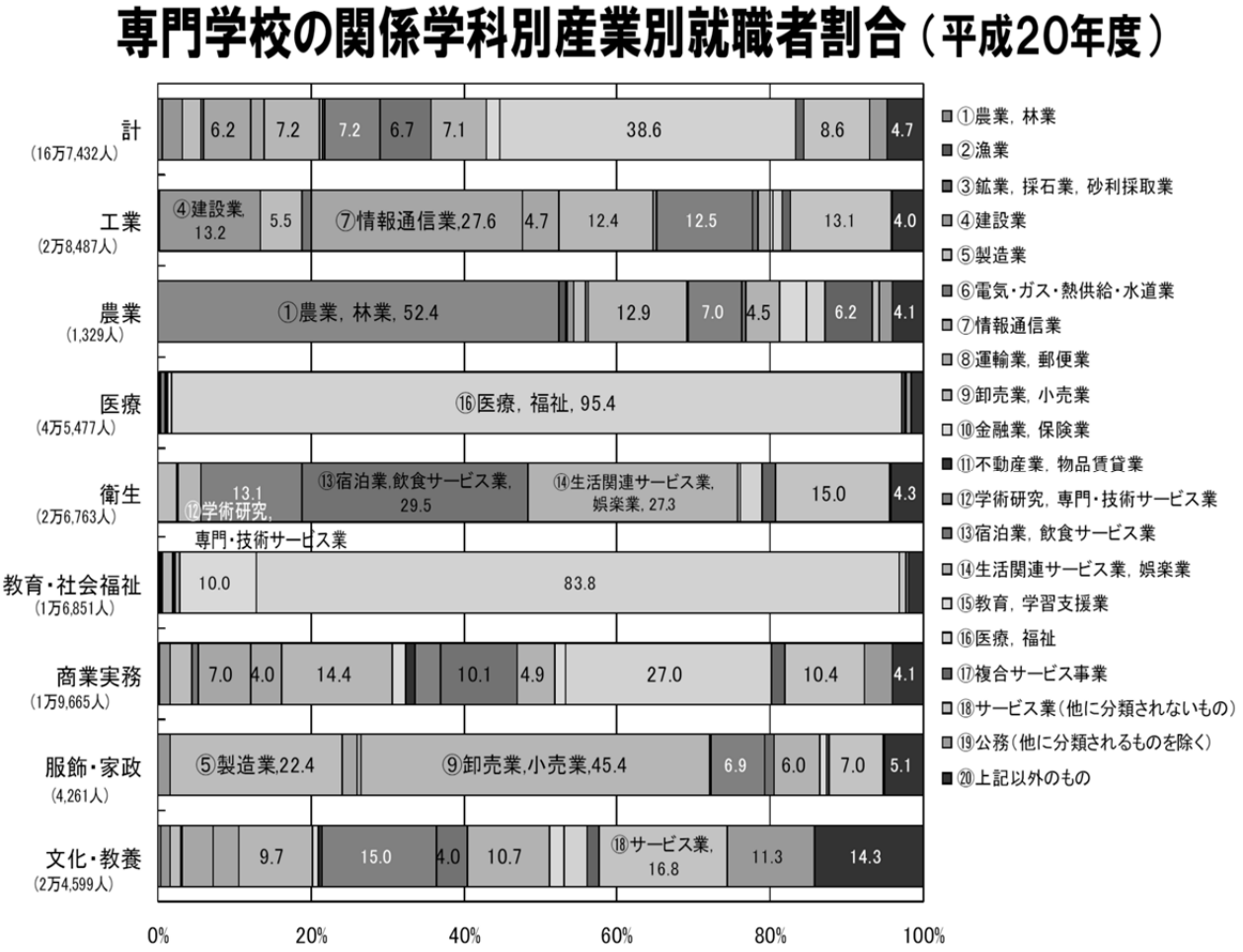
（平成27年３月）



（資料出所:文部科学省「平成 27 年度学校基本調査」
2015 年 12 月を基に作成）

④　専門学校の卒業者

・2008年（平成20年）３月における専門学校卒業者の産業別就職者割合は、「医療、福祉」が38.6％と最も高く、次いで「サービス業(他に分類されないもの)」が8.6％、「卸売業、小売業」と「学術研究、専門・技術サービス業」が7.2％等の順である。



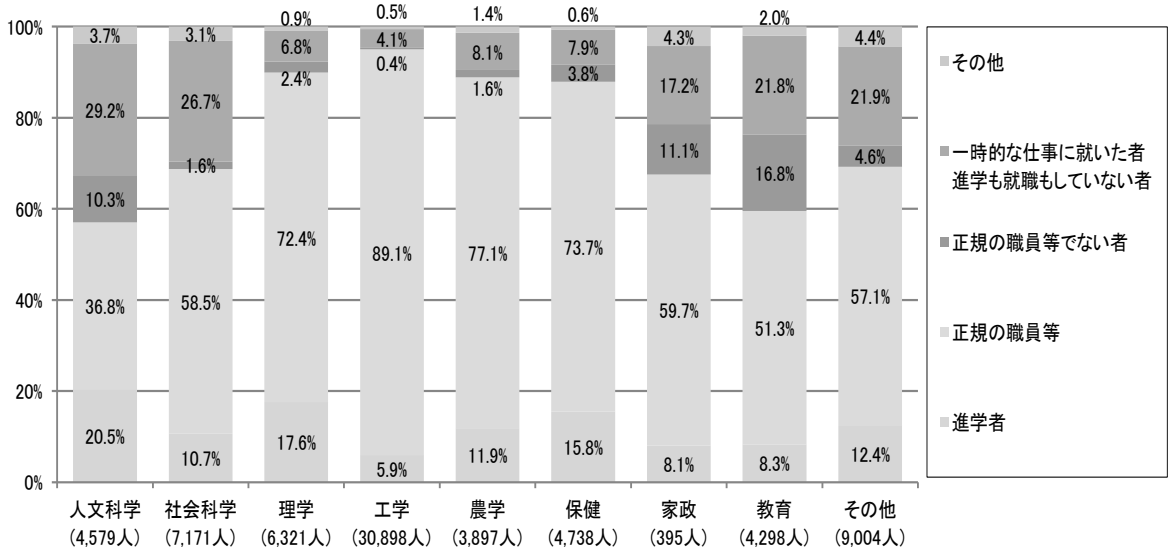
（資料出所：中教審「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011 年１月）

３　教育と社会の接続における課題

①大学生の分野別卒業者の状況

・人文科学系、社会科学系、教育系、家政系の学部では、「一時的な仕事に就いた者、進学も就職もしていない者」「正規の職員等でない者」の比率が比較的高い。

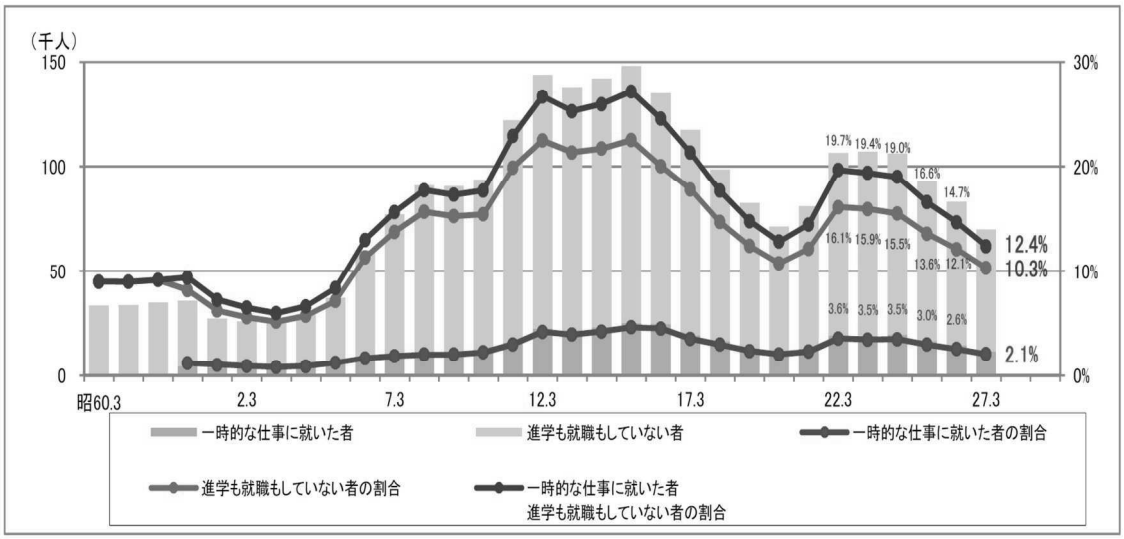
・理学系、工学系、農学系、保健系では、「正規の職員等」の比率が高い。



（資料出所：文部科学省「平成 27 年度学校基本調査」2015 年 12 月）

②大学（学部）卒業時における「安定的な雇用に就いていない者」の問題

・卒業者のうち「一時的な仕事に就いた者、進学も就職もしていない者」の割合は、2015年（平成27年）３月卒では12.4％であった。



（資料出所：文部科学省「平成 27 年度学校基本調査」2015 年 12 月）